

特集

生成AI×薬剤師

―明日からのしごとに役立つ基本 & 活用術―

特集にあたって

2022年末、ChatGPTがリリースされ、公開から2ヵ月でユーザー数が1億人を超えた。その後も急速に普及し、今や世界中の多くの人々が利用する技術となっている。筆者はChatGPTのリリース時、スウェーデンに留学中であつた。リリース直後、研究室の教授がChatGPTの話題を出し、その自然な回答に皆が驚かされたことを今でも覚えている。日本語でも試したところ違和感なく使え、スウェーデン人の同僚に驚かれたことが印象的だつた。

これまで人類は幾度となく大きな変革を経験してきた。1700年代後半の産業革命、1928年に発見されたペニシリンは1940年代に実用化が進み、第二次世界大戦を契機に急速に普及した。1957年にはスプートニク1号の打ち上げによって宇宙時代が幕を開け、1969年にはARPANETの誕生がインターネットの礎を築いた。2007年にはiPhoneが登場し、スマートフォンの時代が到来した。そして、2022年にChatGPTをはじめとする生成AI技術が一般公開され、AIの新たな時代が始まった。この技術の基盤となる手法は2017年に論文発表されていたが、実用化により私たちの生活は一変しつつある。

時代が変わるたびに、新しい技術や文化は批判を受けてきた。江戸時代の書物にも若者の振る舞いを嘆く記述がみられ、さらにさかのぼれば、古代中国の『論語』や古代エジプトの記録にも同様の記述が存在するそうである。生成AIについても「人が不要になるのではないか」といった不安の声があるが、それは新しいテクノロジーに対する典型的な反応ともいえるだろう。2022年後半は世界的なコロナ禍の最中であり、人々は対面での交流が制限される状況にあつた。そのなかで、Zoomに代表されるWeb会議ツールが急速に発展し、当初は「使いづらい」「感情が伝わりにくい」といった否定的な

意見が多かったものの、現在では日常生活に欠かせないツールとなった。新しい技術は最初こそ違和感を伴うが、やがて社会に溶け込み、なくてはならないものへと変化していく。

では、生成AIはどうだろうか。現在、「使えない」「推奨されない」といった意見もあるが、実際にはすでに多くの分野で活用され始めている。そして、生成AIに振り回されるのではなく、人がうまく使いこなせるようにするための工夫やノウハウも急速に蓄積されつつある。本特集では、医療現場における生成AIの活用方法について、日頃から実践している専門家の先生方に執筆いただいた。テクノロジーは日々進化し、筆者自身も常に最新の動向を追いつけられているわけではないため、読者のみなさまが本書を手にする時点では、すでに新たな進展が生まれているかもしれない。その点をご容赦いただきつつ、本特集が少しでもみなさまの実践に役立つことを願っている。

昭和医科大学 統括薬剤部／薬学部 病院薬剤学講座 臨床研究部門 准教授

百 賢二